

漢字の最も古いものは“契文^{けいぶん}”もしくは“甲骨文”と呼ばれてゐるものである。この“文”といふ字は、“文字”といふ意味の最も古い用ひ方の文字である。つまり、昔は、“文字”のことを単に“文”と言つたのである。だから、今では、“甲骨文”よりも、“甲骨文字”と呼ばれることの方が多い。

一八九九年、中国の河南省安陽県小屯村から、文字の刻みつけられた亀の甲や牛の骨などが沢山発見された。亀の“甲”や牛“骨”に刻まれた文字といふことで、この文字を“甲骨文”と言ふのである。

また、“契文”と呼ばれる訳は、“契”とは「刀で刻みつける」といふ意味を表した文字であつて、「亀の甲や獣の骨に刻みつけた文字」といふ意味で名付けられたものである。これらの文字は、国の大事を決定する際に、その吉凶を占ふため、亀の甲や牛の骨に占ひの文章として刻み付けられたものであつた。

亀の甲や獣の骨のほか、この時代の青銅器や石器にも、文字が刻み付けられてゐる。青銅器に刻み付けられた文字を“金文”と言ひ、石器や石碑に刻み付けられた文字を“石文”と言ひ、これを総称して“金石文”と呼んでゐる。

『大学』といふ書物に依ると、殷の湯王^{たうわう}が毎日使つてゐた盤^{たらい}には、「苟日新、日日新、又日新(まことに日に新たに、日に新たに、また日に新たなれ)」といふ自戒の“銘”が刻まれてあつたといふことである。

さて、甲骨文が刻まれてゐる亀の甲や牛の骨が発見された所は、紀元前一三〇〇年からおよそ三百年にわたり、殷王朝の都が在つた所であつたから、漢字の起原は、今から少なくとも三千三百年の昔であつたと考へられてゐる。

「文字の発明」は、すでに前章で述べたやうに、紀元前三三〇〇年頃に、スメール人によって発明されてゐる。また、スメール文字に触発されて作られたと考へられてゐるインダス文字も、少なくとも紀元前二〇〇〇年以上の昔に発明されたものと考へられてゐる。

これらの事を考へ合せてみると、漢字の発明は、スメール文字、もしくはインダス文字がシルクロードを経て中国に入り、それに触発されて作られた、と考へるのがどうも至当のやうに思はれる。